



地域・社会

茨城大学リカレント教育プログラム  
来年度より本格始動 連携懇談会も発足

社会人の学び直しのニーズに応えるため、「茨城大学リカレント教育プログラム」を来年度から始動します。このプログラムは、①公開講座・公開授業から1科目単位で誰でも自由に受講できる「オープンコース」、②体系化した科目カテゴリから選択して学び、一定の受講により受講証明が授与される「専門コース」、③企業・団体の要望にあわせて教育プログラムをカスタマイズして提供

する「カスタムコース」の3コースで構成。このうち「カスタムコース」は本学独自の仕組みです。これらのプログラムによって社会人の多様な学び直しニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。また、自治体や企業などのニーズをきめ細やかに把握し、最適なプログラムの策定や改善につなげるため、本学と自治体・企業などで構成する「いばらき社



会人リカレント教育懇談会」を発足し、定期的に協議を行います。

同プログラムの詳しい情報は、今後ホームページなどで順次公開していく予定です。

研究



掲示板で教員の異分野連携を促すイベント開催

1月28日～2月19日、教員の異分野連携の推進を図る展示・交流イベント「アオソラ連携プロジェクト」が開催されました。このイベントでは、本学の教員から研究上のコラボレーションに関する要望や研究内容についての情報を寄せてもらい、匿名

にしてパネルに展示。来場者は付箋にコメントや連携についての興味を記して、それぞれのパネルに貼り付け、展示終了後に教員と来場者をつなぐというもの。間宮い URA が京都大学の取り組みからヒントを得て発案し、実現に至りました。本学では54人の教員から連携希望の情報が寄せられ、阿見・日立・水戸いずれの展示会場でも多くの来場者が訪れました。2月13日には水戸キャンパスでミニトークイベントも開催し、異分野連携を積極的に進めてきた理工学研究科の吉田大和助教、三村信男学長が自らの取り組みを紹介しました。

地域・社会



茨大生に愛されて31年「宝珍楼飯店」が閉店

本学の学生・卒業生たちが多く通っていた水戸キャンパス近くの飲食店「宝珍楼飯店」が、2月27日、多くのファンに惜しまれながら閉店しました。宝珍楼が開店したのは1988年9月。満点のボリュームと低価格、豊富なセットメニューでオープンから学生たちに人気を博しました。特に人気のあったメニューは、「青中」と呼ばれ

る青菜中華丼。素揚げしたほうれん草と豚バラ肉を甘さと香味あふれるタレであわせ、大盛りのライスに乗せた一品です。「四天王セット(剣道部)」「ジャズ研セット」「ペガサス丼(バレー部)」「しのぶどんぶり(ラグビー部)」などユニークな名前のセットも名物となっていました。2月15日に閉店が発表されると、週末を中心にお店の前には人だかりができ、その様子は新聞などでも紹介されました。マスターの木ノ内久雄さんは、「ここは私のふるさとですよ。飽きっぽい私が31年間もやってきたんですから。それは若い人と話すのが好きで、この場所にも自分が合っていたということですよ」と語っていました。

国際交流

茨城県国際化推進奨励賞授賞式



茨城地域留学生交流推進協議会  
茨城県国際化推進奨励賞を受賞

本学の三村信男学長が議長を務める茨城地域留学生交流推進協議会が、「平成30年度茨城県国際化推進奨励賞(国際化促進部門)」を受賞しました。2月8日に茨城県庁で表彰式が行われ、三村学長の代理で太田寛行理事が出席しました。

この賞は、茨城県の国際化推進に貢献した団体や個人を対象に県が表彰するものです。

1989年に茨城大学長を議長として設置された茨城地域留学生交流推進協議会は、県内11の高等教育機関、8の地方公共団体、7の経済団体、4の国際交流関係団体から構成されており、各団体が協力しながら様々な国際交流活動に取り組んできました。奨学金や就職支援などにより県内で学ぶ留学生の学生生活の充実に寄与したほか、留学生が地域の学校や生涯学習の場に出向いて自国の文化を紹介する「ワールドキャラバン」などの事業を通して地域住民との交流活動を継続的に行っていることが評価され、このたびの受賞にいたりしました。

今号の一枚



2/25・26一般入試前期日程  
受験生たち、緊張の面持ち

おもなメディア掲載

- 2/1 朝日新聞「<探訪! @けんきゅうしつ> 茨城大キャリアセンター(水戸市) インターシップで単位付与 学ぶ動機付け1年生から「学外での経験 悩み迷うきっかけに」
- 2/1 日刊工業新聞「スポーツで地域活性化 茨城大が講演会」
- 2/1 茨城新聞「<科学技術立県はいま(9)> サポート役「URA」・研究者の負担軽減へ」 間宮い URA・平山太市 URA
- 2/1 朝日新聞「戦争の記憶 伝えるために 専門家や茨城大生ら あすシンポ 埋もれた史実 紹介」 人社・地域史シンポ
- 2/4 AERA「納豆男子がアフリカを走る 日本の食文化を世界に届ける挑戦」 本学OB・宮下裕任さんの密着取材記事
- 2/5 茨城新聞ほか「<科学技術立県はいま(11)> 原動力は基礎研究・産学連携、社会に還元」 理・二橋美瑞子准教授、尾崎久記理事
- 2/5 茨城新聞「<泣く>「孤立しない」 子連れ出勤に賛否の声 茨城大 渋谷教授 まず育休、待機児童解消を」 人社・渋谷教司教授
- 2/6 読売新聞「甘味と阿見 菓子でPR 「甘味ポテト」 茨城大有志が商品開発」
- 2/7 茨城新聞「<なめテレCM> 依頼9団体 狙い伝える 行方 茨城大生にプレゼン」 人社・村上信夫ゼミの活動
- 2/13 朝日新聞「<ピープル>「人」表現 紙媒体にこだわり 卒業制作をフリペで出版した茨大生 榎山加奈さん(22)」
- 2/14 茨城新聞「<茨城大「新聞マルシェ」 PR > 14紙「まわしよみ」 学生ら交流 記事切り抜き再編集」
- 2/19 茨城新聞「<茨城大でシンポ> 文理融合で水害研究を 専門家 防災・減災へ史料活用」 ICAS・国文研共同シンポ
- 2/19 茨城新聞「地域活性化の活動報告 茨城大 協力隊など8団体 社会連携C企画、いばらきシビックプライドセッション」
- 2/28 毎日新聞ほか「<茨城大アンケート> 7割強「住民投票で判断」 周辺4市村 東海第2原発再稼働」 人社・渋谷教司教授らによる住民アンケートの成果